

令和7年度実施 「魅力と特色のある県立高校づくりについてのアンケート」  
集計結果について

1. 基準となる指標について

「魅力と特色づくりアンケート」のうち、「高校生活において、課題の発見と解決に向けて、主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生のときよりも思考力・判断力・表現力等を高めることができましたと思いますか。」の問いに対する高校生の割合を指標とし、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した者の変化を見た。

2. 指標の結果について

令和4年度に卒業した生徒（3期生）の回答結果は「そう思う」39.3%、「どちらかといえばそう思う」45.4%で二つを合わせると84.7%であった。

令和5年度に卒業した生徒（4期生）の回答結果は、「そう思う」40.8%、「どちらかといえばそう思う」46.7%で二つを合わせると87.5%であった。

令和6年度に卒業した生徒（5期生）の回答結果は、「そう思う」61.5%、「どちらかといえばそう思う」32.4%で二つを合わせると93.9%であった。

令和7年度に卒業した生徒（6期生）の回答結果は、「そう思う」57.9%、「どちらかといえばそう思う」37.4%で二つを合わせると95.3%となり、令和6年度よりも1.4ポイント上昇した。

●令和4～7年度卒業生の結果

質問項目 A-5：高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることができましたと思いますか。				
回答	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
4.そう思う	39.3%	40.8%	61.5%	57.9%
3.どちらかといえばそう思う	45.4%	46.7%	32.4%	37.4%
2.どちらかといえば満足していない	9.8%	9.2%	3.3%	4.1%
1.ほとんどあてはまらない	5.5%	3.3%	2.8%	0.6%

### 3. 結果の分析について

令和7年度卒業生は入学当初より、新型コロナウイルスによる活動制限がほとんどなかったために、授業中や特別活動中の発表の機会が多く設定され、充実した学習活動を送ることができたため、肯定的な意見の割合がさらに上昇したと考えられる。

県立高校指定校事業が4年目となり、グローバル教育にかかる活動が年々充実していることも生徒の回答に影響をあたえたものと考えられる。